

R7年度 学校評価集計

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果		
			(肯定的割合・%)		
			児 童	保護者	教職員
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	89.4	100	100
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	94.8	100	100
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			80
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92.1	100	100
		挨拶をよくしている	92.1	100	100
		「あ・は・は運動」を知っている（小学校のみ）	65.8	93.5	83.3
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97.4	96.8	100
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	100	97.4	100
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97.3	100	100
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	100	100
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97.3	93.6	100
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	94.6	100	100
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	97.4	96.8	100
		家庭学習の習慣が身に付いている	86.8	87.1	83.3
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	89.5	90.3	100
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92	100	100
健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	100	100	100
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）が身に付いている	92.1	83.8	83.3
		体力向上に努めている	89.4	93.6	100
	食 育	食に関する教育活動を行っている	94.8	100	100
	メディアリテラシー教育	メディアに関するルールを身につけている	86.8	96.8	

信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	100	100
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	97.4	96.8	100
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	100	100	100
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	97.4	96.8	100
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100

自己評価のまとめ

○学校の約束事である「メディア（ゲーム等）の使用は、8時まで」を定着させるために、学校保健委員会とメディア安全指導員の講話の2本柱で取組を行った。取組期間中や期間後は一定の効果を感じることができているが、継続までには至っていない。継続させるために、代表委員会で子ども自身に「1日の使用時間」等のルール作りを行わせたいと考えている。家庭での環境づくりの難しさもあるが今後も保護者の協力を得ながら、メディアコントロールを身に付けさせていきたい。

○「早寝・早起き・朝ごはん」については、保護者啓発と児童への働きかけを定期的に行っていききたい。

○「あ・は・は運動」の言葉の意味を児童に定着させることが不十分だった。各項目とも具体的指導では成果が上がっており次年度は、「掲示」「生活指導主任が学期ごとに話をする」等の取組で意味理解を図りたい。

○今年度から、2年生・3年生と5年生・6年生の複式学級ができた。そこで、校内研修でガイド学習を全学年で取り組んだ。その結果、「主体的な学び」「協働的な学び」の姿が高まってきた。ガイド学習をさらに進めるためには、「予習型家庭学習」を徹底させていき、あわせて「家庭学習の習慣」を身に付けさせるには「メディアコントロール」が重要なので、次年度の学習・生活の重点取組にしていきたい。

学校関係者評価

○配付文書の電子化はペーパーレス化で構わないが、添付ファイルを確認していたなかったり、熟読していなかったりするという状況も考えられる。重要文書は、tetoruと紙媒体の両方で配付してもらいたい。

○小学生のAI利用については、十分に子どもの学力やメディアリテラシー、情報モラルが育っていることを確認したうえで利用してほしい。基礎がないうちに経験してほしい。

○いじめの認知については、保護者の理解がもっと必要だと思う。

○複式学級になりガイド学習を始めて、子どもたちの学習の様子とともに認知的な学力はどうなったかを知りたい。

対策等の見直し

以下に取り組むとともに、その内容について学校・家庭・地域で共有して効果を上げたい。

○今年度も重要文書は紙媒体で配付するように心がけた。次年度も継続していきたい。

○AIを活用する場合は、子どもの実態を教職員で十分議論し、保護者の理解を得たうえで授業に取入っていく。

○年度初めの育友会総会時に、「いじめの認知」についてを説明したい。

○学校独自で学力調査を実施し、数値化したい。